

決算説明資料

(2019年9月期 第3四半期)

株式会社キャリア
(証券コード：6198)



0. 目次

1. 決算サマリ (P 2)
2. 連結業績概要 (P 3~ P 6)
3. 連結業績予想 (P 7)
4. 株主還元 (P 8)
5. 会社概要 (P 10~ P 17)

1. 決算サマリ

■ 2019年9月期3Q累計（連結）

売上高 : 8,337百万円（前年同期比110.3%、前年同Q比119.4%）

営業利益 : 183百万円（前年同期比49.6%、前年同Q比42.7%）

■ シニアワーク事業

売上高 : 3,264百万円（前年同期比101.8%、前年同Q比103.0%）

- コールセンター派遣事業の拡大（前年同期比114.9%、前年同Q比127.3%）

- 入札案件事業の戦略的減衰（前年同期比91.3%、前年同Q比85.2%）

■ シニアケア事業

売上高 : 5,072百万円（前年同期比116.6%、前年同Q比131.8%）

- 組織改革・営業組織の拡大・研究広告費の投下により、成長率回復

- キューボグループM&Aにより509百万円の貢献（2Q:239百万円、3Q:270百万円）

2. 連結業績概要 (P/L 対前年同期比)

■ 売上高は、前年同期比110.3%、経常利益は前年同期比54.6%

①シニアワークは、コールセンター増加も、ブルーカラー職種の減少で売上高前年比101.8%

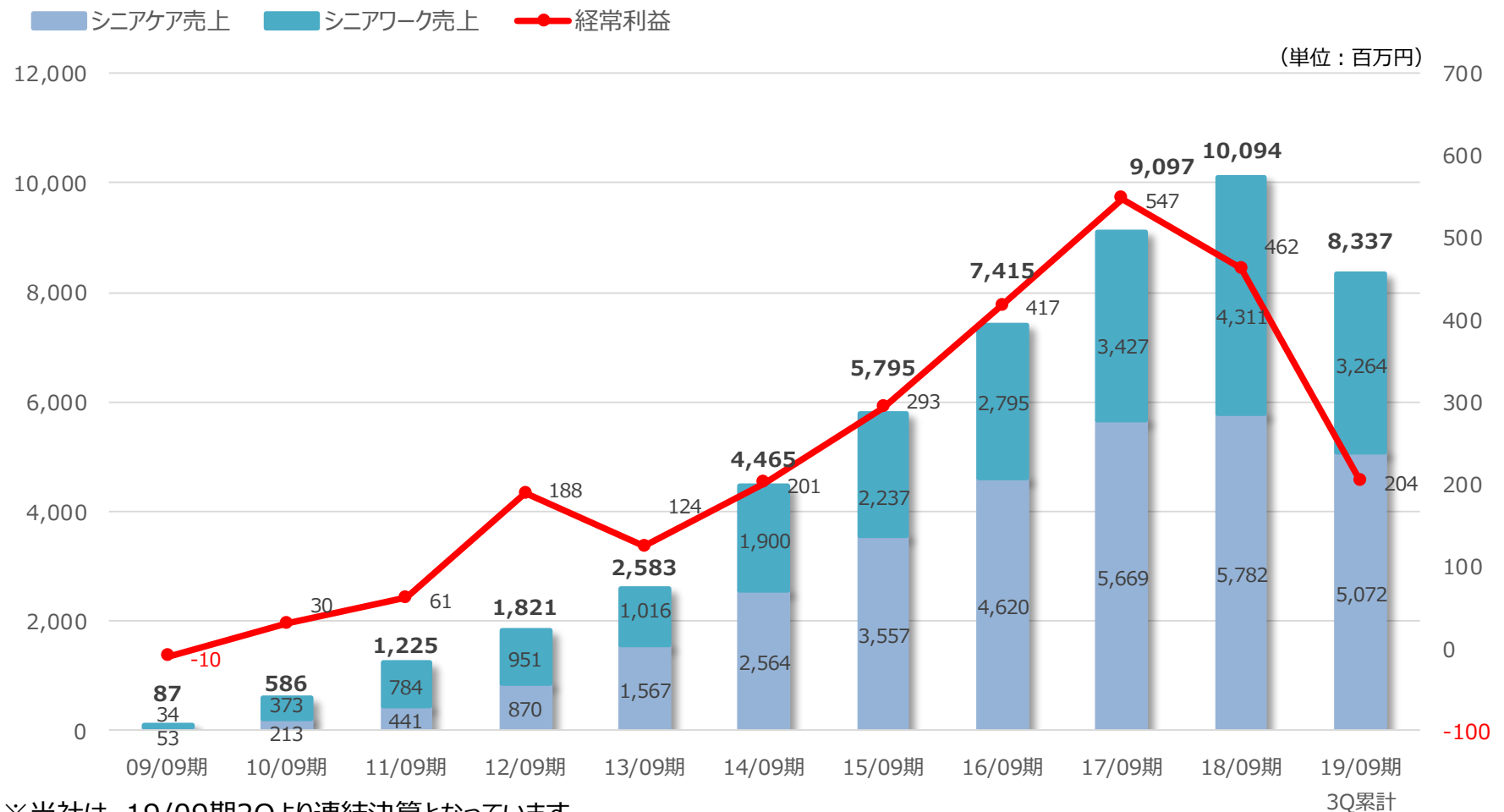
②シニアケアは、キューボグループのM&A効果も寄与し、売上高前年比116.6%

(単位：百万円、%)	18/09期3Q累計 実績 (単体)		19/09期3Q累計 実績 (連結)		対前年比
	金額	売上高比	金額	売上高比	
売上高	7,558	100.0	8,337	100.0	110.3
シニアワーク事業	3,207	42.4	3,264	39.2	101.8
シニアケア事業	4,350	57.6	5,072	60.8	116.6
売上原価	5,974	79.1	6,597	79.1	110.4
売上総利益	1,583	20.9	1,740	20.9	109.9
販売費及び一般管理費	1,213	16.1	1,557	18.7	128.3
営業利益	369	4.9	183	2.2	49.6
経常利益	375	5.0	204	2.5	54.6
親会社株主に帰属する当期 (四半期) 利益	-	-	107	1.3	-

※当社は、19/09期2Qより連結決算となったため、単体決算であった18/09期の同四半期と比較しています

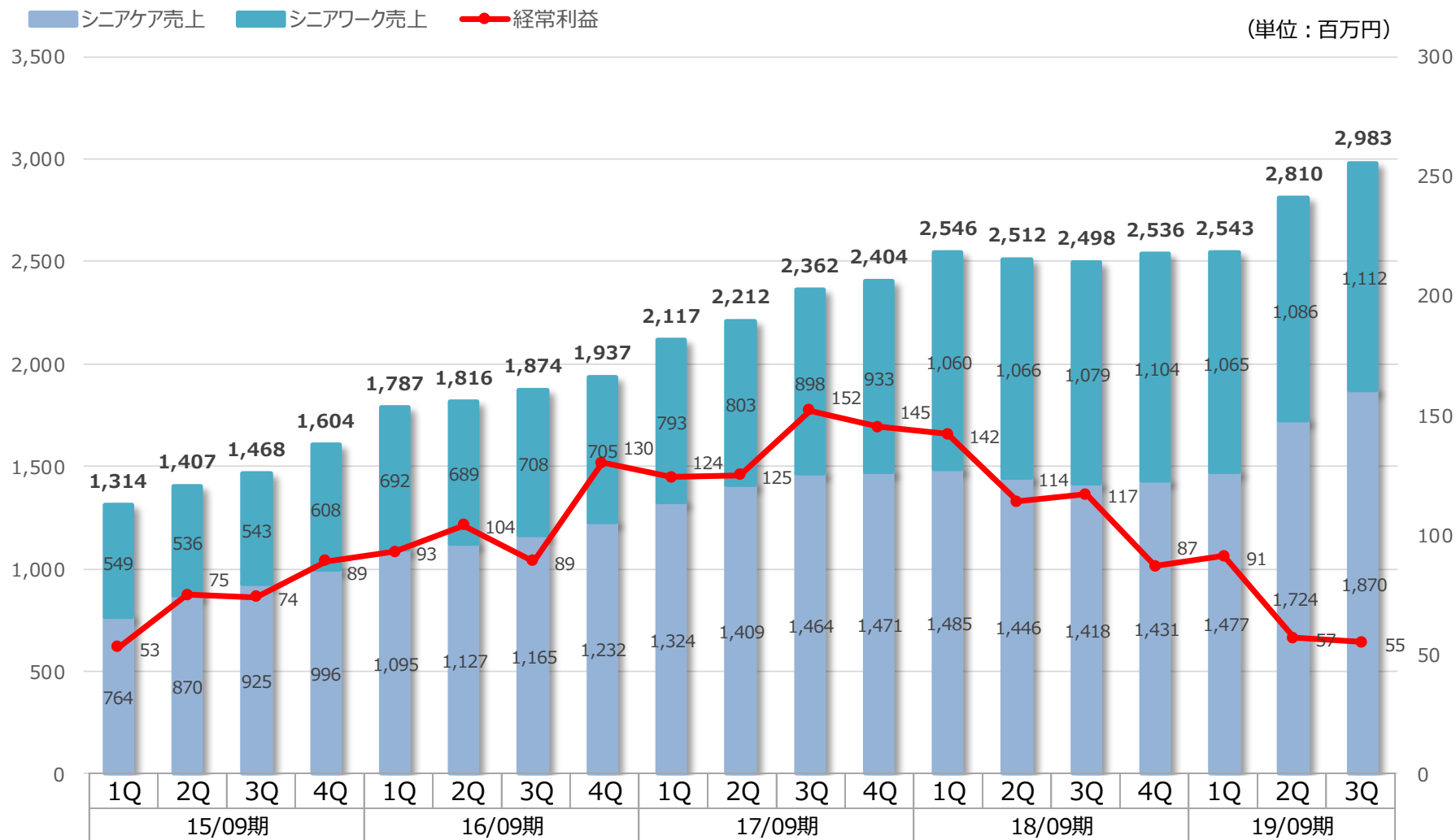
2. 連結業績概要 (年度 業績推移)

※2019/09期は、3Q累計期間



※当社は、19/09期2Qより連結決算となっています

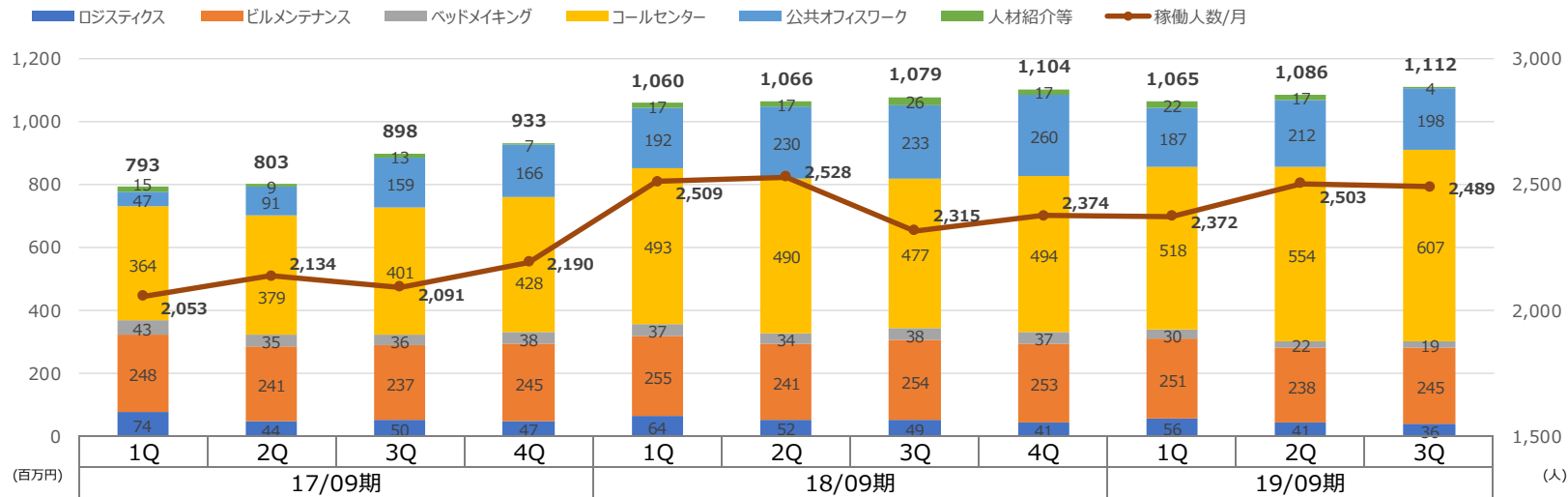
2. 連結業績概要 (四半期 業績推移)



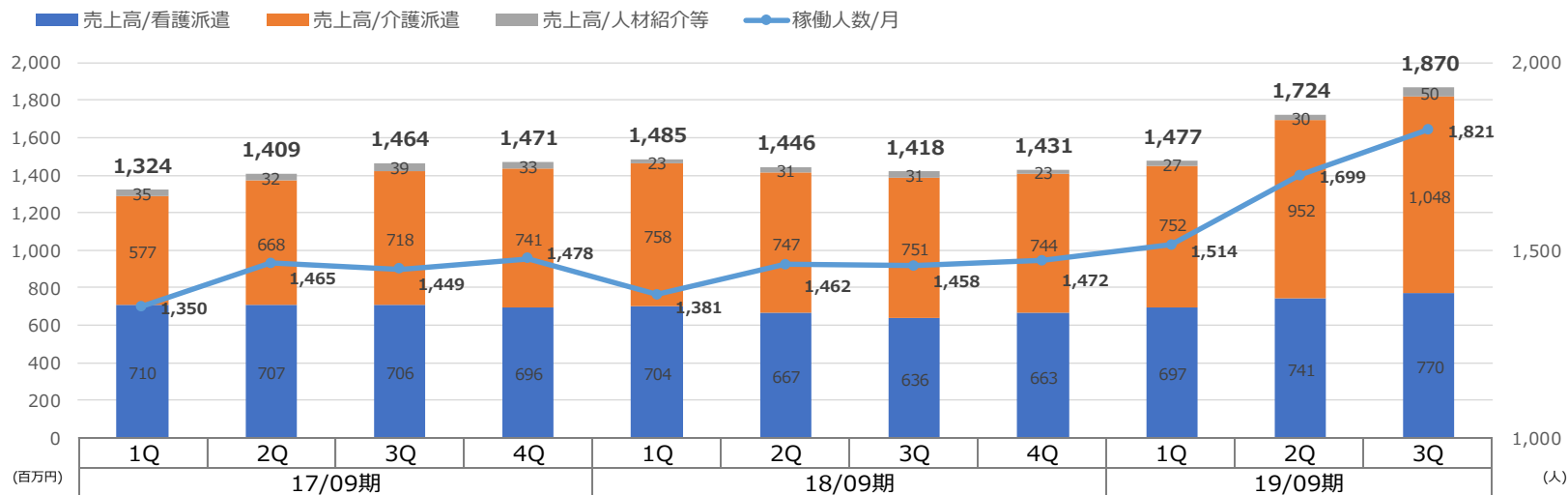
※当社は、19/09期2Qより連結決算となっています

2. 連結業績概要 (事業別四半期KPI)

■ シニアワーク事業



■ シニアケア事業



3. 連結業績予想

2019年9月期業績は、売上高 前年比113.9%、経常利益 前年比58.4%を予想

(単位：百万円、%)	19/09期					
	上期		下期		累計	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
売上高	5,300	104.8	6,200	123.5	11,500	113.9
営業利益	120	47.3	150	72.9	270	58.9
経常利益	130	50.5	140	69.5	270	58.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	-	80	-	150	-

※当社は、19/09期2Qより連結決算となったため、単体決算であった18/09期の同期と比較しています

4. 株主還元

配当予想

1株当たり6.25円の配当を実施予定

(単位：円)

	18/09期（実績）		19/09期（予想）	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金	2.50	3.75	2.50	3.75

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

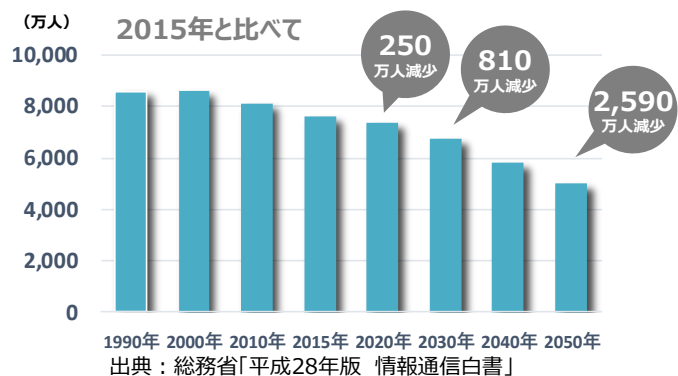
様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

また2015年9月期3Q以前のデータは、弊社内部管理数字となります。

5. 会社概要

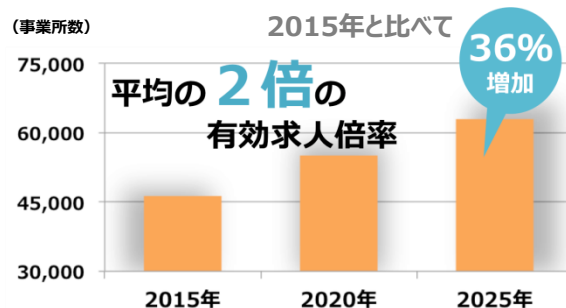
日本はますます高齡化社会が進行し、こと人材市場においては、**労働人口の減少、介護市場での人手不足**は大きな課題となっております。

深刻な労働力の減少



2020年までに**250万人**の減少。
その後勢いは**さらに加速**していくと予想されております。

介護市場の人手不足



出典：厚生労働省「介護サービス施設・事務所調査」
厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省「労働力調査」

介護施設の増加が続いている。さらに施設では**採用難**が続いており、この状況は続くものと予想されております。



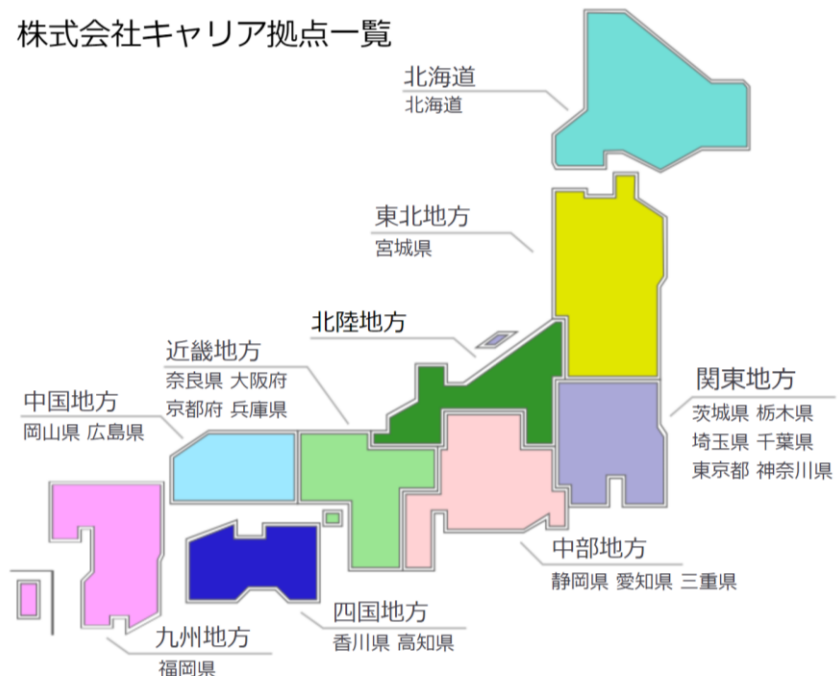
CAREERは、この2つの課題に人材サービスで応える
高齡化社会型人材サービス企業です

5. 会社概要

会社名	株式会社キャリア／CAREER CO., LTD.		
設立	2009年4月28日		
資本金	157百万円		
本店所在地	東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル		
役員	代表取締役会長兼社長	川嶋 一郎	
	取締役	竹上 雅彦	
	取締役	羽鳥 雅之	
	取締役	蒲原 翔太	
	取締役（社外）	谷間 真	
	取締役（社外）	竹澤 大格	
	監査役	吉村 精治	
	監査役（社外）	谷口 誠治	
	監査役（社外）	田中 奉文	
取得免許	人材派遣免許	: 派 13-304437	
	人材紹介免許	: 13-ユ-304348	
	Pマーク	: 第17000661 (05) 号	
	JISQ27001	: MSA-IS-277	
本社事業所	東京本社	札幌支店	仙台支店
	水戸支店	宇都宮支店	大宮支店
	船橋支店	秋葉原支店	池袋支店
	新宿支店	立川支店	横浜支店
	藤沢支店	静岡支店	浜松支店
	名古屋支店	三重支店	奈良支店
	大阪支店	京都支店	神戸支店
	岡山支店	広島支店	北九州支店
	福岡支店	高松支店	
	高知事務センター		

企業理念

高齢化社会のなかで、すべての人々が仕事を通じて社会に貢献し、生きがいを見つけることのできる世の中の実現を目指します。

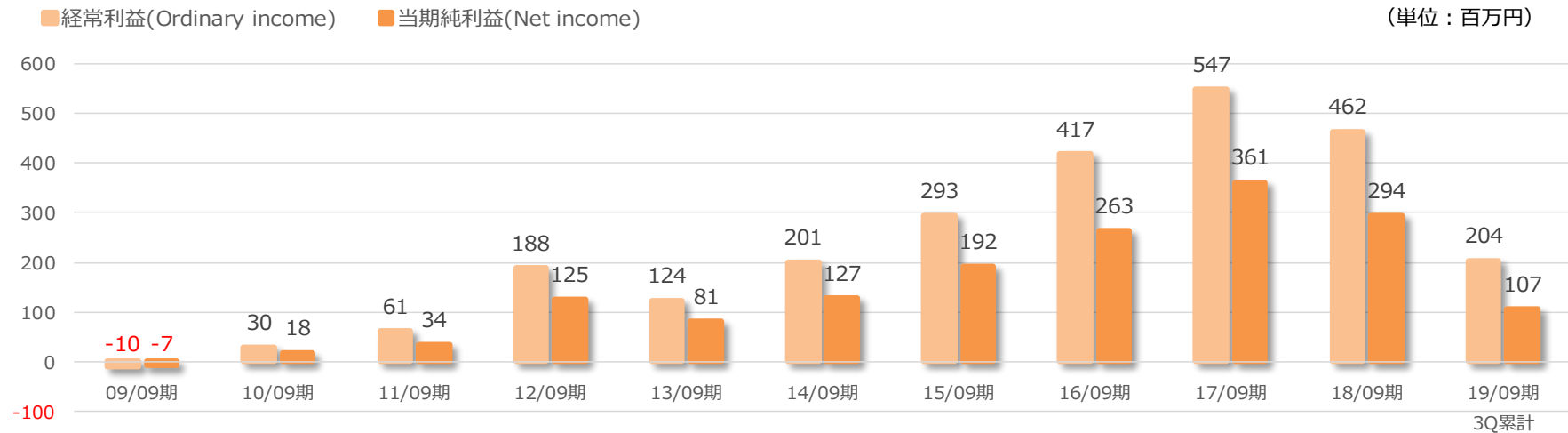
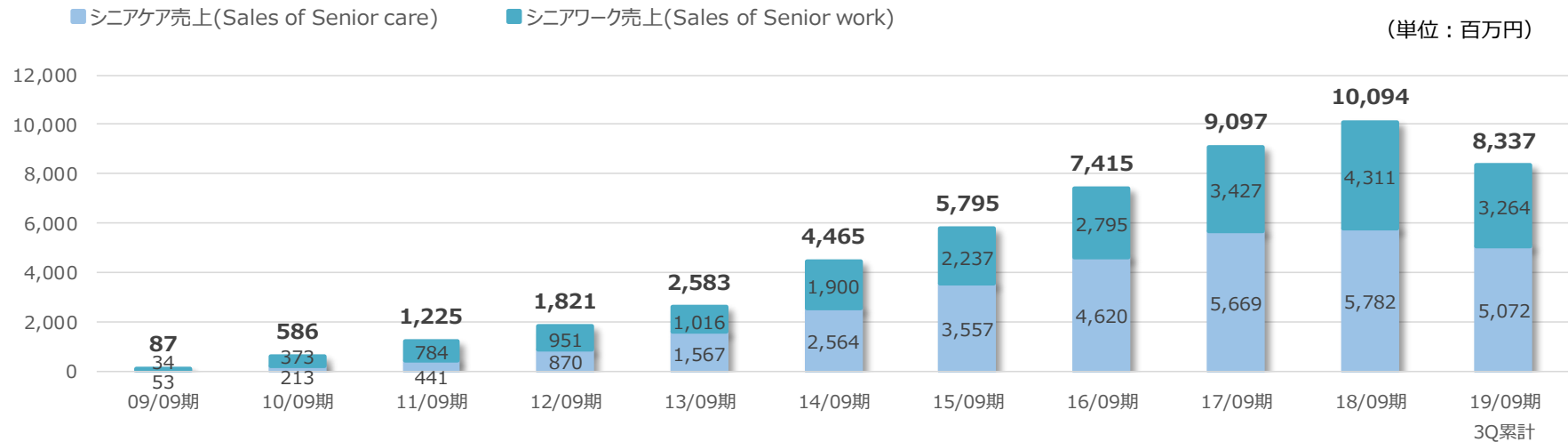


設立11年で全国**25支店**へ拡大しています

(2019年8月13日現在)

5. 会社概要

■ 設立から、10期連続の増収を達成 (※19/09期2Qより連結決算へ移行)



5. 会社概要



期待されるシニア人材市場

労働人口の減少×高齢化

労働人口は、2015年と比べて2020年までに250万人、2030年までに810万人減少し、人口の1/3が65歳以上になると予測されております。

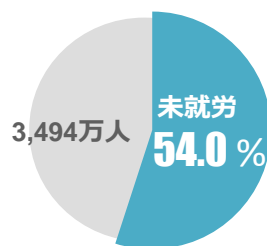
期待されるシニア就労

シニア（55～75歳）の未就労率は54.0%（1,886万人）。女性（15～64歳）の未就労率34.0%（1,314万人）と比較しても高く、次世代の労働力として期待されており、国の施策に多く盛り込まれております。

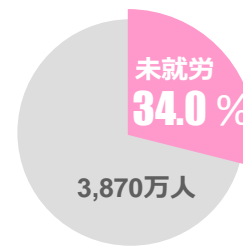
- 一億総活躍社会
- 高齢者雇用安定法
- 社会保障費削減
- 継続雇用制度
- 特定求職者助成金
- 定年引上げ
- 生きがい就労事業
- Etc...

シニアの高い就労意欲

各世代のシニアは高い就労意欲をもち、就労を希望している現状があります。



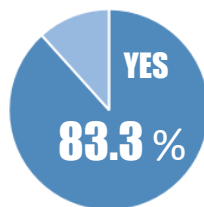
シニア（55～75歳）



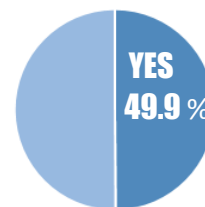
女性（15～64歳）

出典：総務省統計局「平成26年 労働力調査年報」

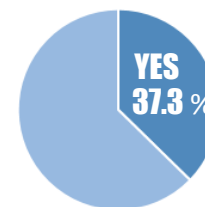
これから先も働きたいですか？



60代



70代



80代

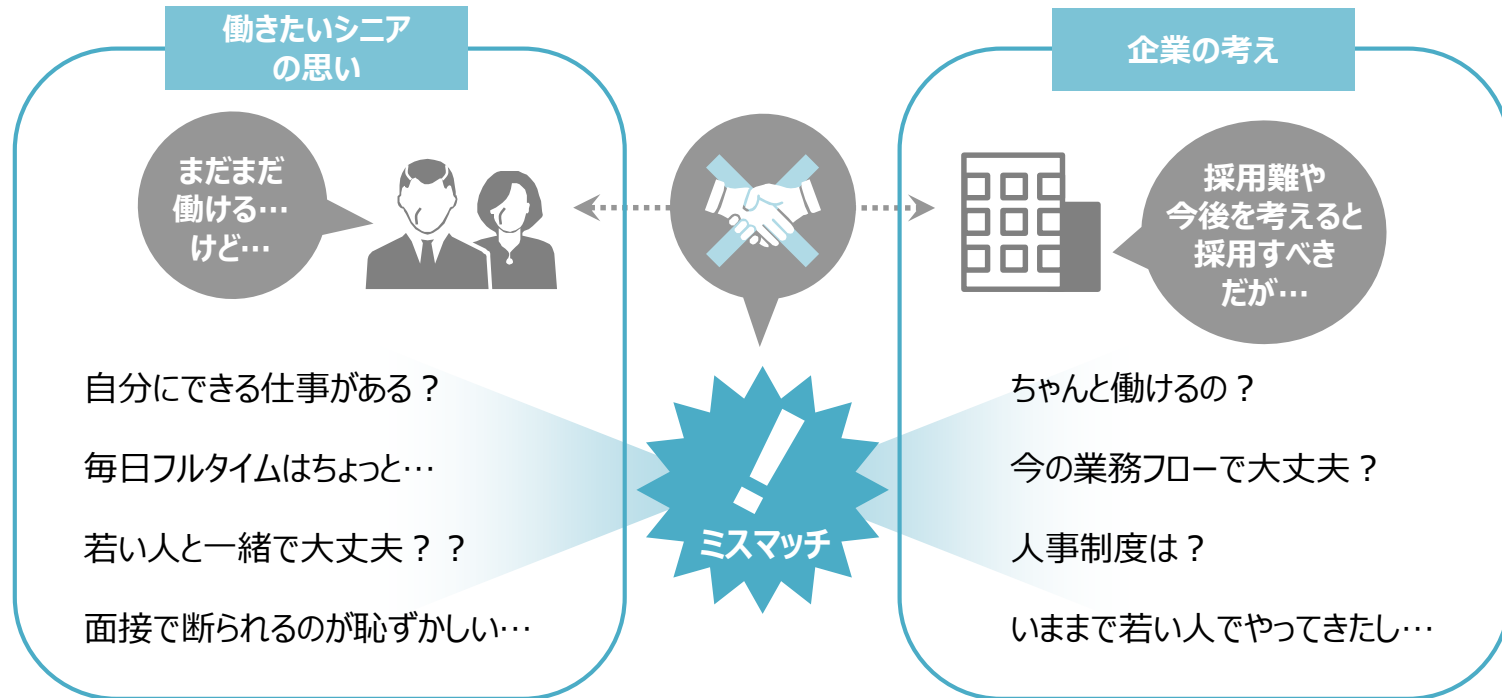
出典：内閣府「平成25年度 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」

シニア人材の活用は日本の労働人口の減少問題を解決し、シニア世代も就労を望んでいます

5. 会社概要



しかしながら…企業の受け入れはまだ進みきらず
働きたいシニアとの**ミスマッチ**の解消が課題となっています



**CAREERは、創業以来
働きたいシニアと企業のミスマッチを解消し、
業績を伸ばして参りました**

5. 会社概要



当社の多彩な実績を背景に
シニアの特性、企業の業務フローを理解した
シニア活用コンサルタントがこのミスマッチを解消



シニア就労に抵抗のあるクライアントの現場を業務分析し、
シニアを活用する事でメリットが得られるような業務フローの改善提案を行う

このミスマッチの解消を行なう事で、クライアントにシニア活用の
メリットを感じて頂き、当社は業績を伸ばしております

※全てのクライアントに業務分析を行なっているわけではありません。

5. 会社概要



高齢化社会のもう一つの課題 介護市場への人材提供

増え続ける介護施設

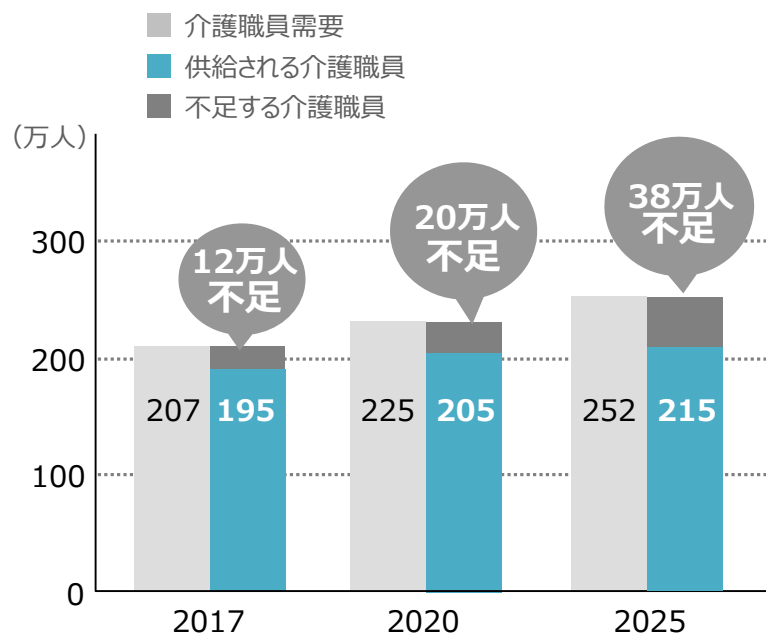
要介護者の増加に伴い、介護施設が毎年のように増加しています。それでも、実際の需要には追いつかず、入所できない要介護者が増えており、今後さらに介護施設の増加が期待されます。

加速度的に不足する介護職員

もともと有効求人倍率の高い介護職員ですが、年々増える介護施設の需要に追いつかず、介護施設における人手不足は加速度的に厳しくなり、当社のような人材サービスの必要性が高まっております。

叫ばれる2025年問題

「2025年問題」とは、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達する事により、介護、医療等の社会保障の急増が懸念される問題です。現段階でも高まる介護施設への人材サービスの必要性が今後さらに高まってゆくと考えられております。



出典：厚生労働省「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計(確定値)について」

介護施設向けの人材サービスの需要は大きく
今後さらに拡大の一途をたどることが予想されます

5. 会社概要



CAREERでは潜在看護師、潜在介護士の市場開拓に成功 介護施設の採用難を解消しています

71万人の未就労看護職員



出産、転職等で空白が...
結婚等でパートで働きたい...

4万6千戸の介護施設



働きやすい現場
短期間、パートでも働ける

医療施設は、一般に労働条件が厳しく、離職率が高いと言われております。看護職員の中には、貴重な資格を現場で活かしていない方も多く、実に71万人の未就労看護職員（出典：厚生労働省「第33回社会保障審議会医療部会」）がおります。

看 介

1 : 3~5

大きな介護士マーケット

平均的な介護施設では、看護職員1名に対し介護士は3~5倍の人数を必要とし、看護職員同様に、有効求人倍率も2.6倍（看護師：約3倍）※と高く、現状の求人難は、今後さらに拡大するものと予想しております。

※出典：厚生労働省「職業安定業務統計」（2016年1月分、パートタイムを除く常用）

潜在介護士228万人※

国の政策

新3本の矢「介護離職ゼロ」に向けた介護人材確保策には、潜在介護人材の呼び戻しが掲げられ、再就職準備金貸付制度等の復職を後押しする為、平成27年度補正予算に盛り込まれる等、「官民一体」となった事業であると考えております。

※出典：(株)日本総合研究所「平成22年度 潜在ホームヘルパーの実態に関するアンケート調査研究」